

Japan International Education Society



日本国際教育学会

# 第 30 回記念研究大会

## 開催要項

2019 年 9 月 7 日（土）・ 8 日（日）

会場：大谷大学

1) 開催日程：2019年9月7日（土）・8日（日）

2) 大会会場：大谷大学 本部キャンパス 慶聞館  
〒603-8143 京都市北区小山上総町

3) 大会スケジュール  
9月7日（土）

9：30～	受付	慶聞館 4階 K406 教室前
10：00～12：00	課題研究「国際比較から見る教員の働き方改革」	K406 教室
12：00～13：00	昼休み	
	理事会（12:05～12:50）	K411 教室
13：00～14：30	自由研究発表 1	
	第1部会	K406 教室
	第2部会	K408 教室
	第3部会	K409 教室
14：45～17：15	公開シンポジウム I 「国際教育学の課題と方法を考える - ポストコロニアルの先住民族教育研究を踏まえて -」	K406 教室
17：30～18：15	総会	K406 教室
18：30～20：30	情報交換会	

9月8日（日）

9：30～	受付	慶聞館 4階 K406 教室前
10：00～12：15	公開シンポジウム II 「仏教の国際化と教育」	K406 教室
12：15～13：00	昼休み	
13：00～14：30	自由研究発表 2	
	第1部会	K406 教室
	第2部会	K408 教室
	第3部会	K409 教室

※スケジュールは多少、変更の可能性があります。

4) 参加費・情報交換会費

大会参加費 3,000円 \*非会員の方も臨時会員としてご参加いただけます。

情報交換会用 5,000円 \*参加費用、情報交換会費用は受付時にお支払いください。

公開シンポジウム（7日、8日）は無料でご参加いただけます。

※近隣にスーパーやコンビニがありますので、お手数ですが各日ご自身で昼食をご準備いただきますようお願いいたします。

5) 公開シンポジウム I (大会第 1 日目 9 月 7 日 (土)、14:45~17:15、K406 教室)

### 国際教育学の課題と方法を考える

#### - ポストコロニアルの先住民族教育研究を踏まえて -

「先住民族の教育権保障に関する国際比較」(科研費基盤研究 A) (研究代表者:岩崎正吾) に始まり、「豪州の大学における先住民族主体の専門職養成」(科研費基盤研究 C) (研究代表者:前田耕司) に引き継がれた先住民族教育に関する国際共同研究のプロジェクトも 7 年目を迎える。この間、2012 年の研究大会をはじめ、2013 年大会、2014 年大会、2017 年大会の課題研究において、ロシア、オーストラリア、台湾など先住・少数民族教育への取り組みにおいて先進的な国からゲストを迎え、着実に研究の成果を発表してきた。こうして積み上げてきた研究の蓄積と課題研究における議論をとおして得られた知見をふまえて、ポストコロニアルの比較研究方法(学) (Postcolonial comparative research methodology) —欧米中心の世界観に基づく概念枠組みを前提に議論がされてきたという反省をふまえて—の手法を用いて、本シンポジウムでは国際教育学として先住民族教育研究とどのように向き合えばよいのかを考えたい。1984 年にウタリ協会によって可決された「アイヌ民族に関する法律」(案) の「従来の研究はアイヌ民族の意志が反映されないままに一方的に行われ、アイヌ民族をいわゆる研究対象としているところに基本的過誤があったのであり、こうした研究のあり方は変革されねばならない」とする第 3 条 5 項の条文は、アイヌ民族を研究主体としてリスペクトし、共同研究の推進および研究成果の共同発表のプロセスを重視する必要性を示唆する。国際教育学としては、こうした研究の方法を真摯に受け止め、国連や ILO などの国際機関や国際法の動向分析を視野に入れつつ、先住民族と非先住民族の両者が問題を共有し、共に解決するという相互の関係性の構築をめざす研究のあり方を模索・検討する必要がある。本シンポジウムでは、以上のような論点をふまえて、アラスカ先住民族教育およびアイヌ民族教育に研究の蓄積のあるジェフリー・ゲーマン会員、平取町立二風谷小学校におけるアイヌ語教育の講師として長年携わってこられた関根健司の両氏に報告をお願いするとともに、萱野茂二風谷アイヌ資料館の館長であり、エフエム二風谷放送で編成局長兼パーソナリティーを務める萱野志朗氏をコメンテーターに加えて、アイヌ民族教育研究・先住民族教育研究の課題について検討を行い、国際教育学の方法を考えるうえでの議論の出発点としたい。

コーディネーター：前田耕司（早稲田大学）

発表者：

ジェフリー・ゲーマン（北海道大学）：

「アラスカ先住民族教育研究から見たアイヌ民族教育研究の課題」

関根健司（平取町立アイヌ文化博物館）：

「アイヌ語教育の実践者から見たアイヌ民族教育・国際交流活動への期待と課題」

コメンテーター：萱野志朗（萱野茂二風谷アイヌ資料館）

## 6) 公開シンポジウムⅡ

(大会第2日目 9月8日(日)、10:00~12:15、K406教室)

### 仏教の国際化と教育

日本における伝統宗教である仏教は、元来インドから中国・朝鮮半島・日本へと伝来した国際的宗教であった。明治以降我が国の仏教界は仏教思想の近代化を行ったが、同時に世界各国への布教活動を積極的に行った。本シンポジウムではまず、現在世界において仏教がどのように国際化の展開を行っているのかを考察する。さらに仏教が教育とどのようにかかわっているのかを第二の考察テーマとする。仏教的視座から人間形成がどのように捉えられるのかという原理的視点のみならず、実際の学校教育において仏教教育がどのように行われうるかを考察する。

本シンポジウムでは現代における仏教の可能性について、国際化と教育の視点から論じる。シンポジストは仏教学、仏教の国際化、仏教教育の専門家を招き、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアにおける仏教の普及について発表する。さらに日本における仏教教育の取り組みについて発表を行い、具体的な教材やカリキュラムについてどのように作成されているのかを発表する。そのうえで現在における仏教と教育をめぐる諸問題について議論を行う。

元札幌大谷大学長・前大谷高校長・前同朋大学長の太田清史氏からは日本における仏教教育の在り方について発表予定である。とりわけ真宗大谷派(東本願寺)の宗門立の学校における取組を紹介し、その独自性や意義について発表していただく。大谷大学文学部真宗学科専任講師のマイケル・コンウェイ氏からは、日本の仏教界が海外でどのような開教活動をしているかをご発表いただく。とりわけ真宗大谷派をはじめとする仏教界が北米でどのような活動を行い、現地でどのように受け入れられてきたかをご報告いただく。本学会会員ゼーン・ダイヤモンド氏からは、インド、アジア、環太平洋地域における仏教教育の現状について検討を行う。

今シンポジウムによって、現在仏教が世界でどのように受け入れられているのか、そしてどのように評価されているのかを議論する。また仏教教育がどのような形で行うことができるのか、カリキュラム・教材などの面からも議論を行い、現在の日本及び諸外国における宗教性の陶冶の問題へと議論を深めたい。

シンポジスト：

太田清史(前同朋大学)

マイケル・コンウェイ(大谷大学)

ゼーン・ダイヤモンド(モナシュ大学)

司会：

田中潤一(大谷大学)

7) 課題研究 (大会第 1 日目 9 月 7 日 (土)、10:00~12:00、K406 教室)

### 国際比較から見る教員の働き方改革

第 4 次安倍内閣において最重要法案の一つとして位置づけられた「働き方改革関連法案」が 2018 年 6 月 29 日の参議院本会議で可決・成立した。これに伴い、労働基準法や雇用対策法など、8 本の労働関係法が改正された。その主な内容は、時間外労働の上限規制、同一労働同一賃金の推進、年次有給休暇取得の一部義務化及び高度プロフェッショナル制度の導入などである。「働き方改革関連法案」の提起・審議・成立の過程で、これと連動しつつ、文部科学省では「学校における働き方改革」に関する「緊急提言」や「緊急対策」などが相次いで打ち出されている。今回成立した「働き方改革関連法」が「教員の働き方改革」の方向性に大きな影響を与えることが予想される。課題研究では、こうした状況に鑑み、「日本の教員の働き方の現状」を踏まえて、改革の方向性を探るため、諸外国ではどのように教員の働き方改革を推進しているのか、アメリカ、イギリス、フィンランドの 3 カ国を取り上げ、検討することにした。諸外国から見て日本の教員の働き方に欠けているもの、共通するもの、優れているものなどについてフランクリーに議論するための場として設定したい。国際比較の重要な資料の一つは、2008 年に実施された第 1 回「国際教育指導環境調査」(TALIS: Teaching And Learning International Survey) であるが、2013 年の第 2 回調査を経て、2018 年には 47 カ国の国・地域の参加の下に第 3 回調査が実施されている。第 3 回調査には新たにロシア、中国 (上海)、台湾、カザフスタン、リトアニア、ジョージアなどが参加している。日本は第 2 回調査から参加しているが、2019 年 6 月以降にその結果が公表されることになっている。こうした調査を含めて、各国における教員の働き方の現状と課題を具体的に検証し、改革の方向性を探ることを本課題研究の目的とする。

司会・コーディネーター：岩崎正吾 (首都大学東京名誉教授)

岩崎正吾 (首都大学東京名誉教授) 「日本における教員の働き方改革の現状と問題提起」

大谷杏 (福知山公立大学) 「アメリカ合衆国の教員の働き方と待遇」

永田祥子 (関西大学) 「イギリス (英国) の教員の働き方」

西村貴之 (北翔大学) 「フィンランドにおける教員の働き方」

## 8) 参加申込 (締切 7月26日 (金))

日本国際教育学会ホームページからお手続きください。

日本国際教育学会ホームページ URL : <http://www.jies.gr.jp/> から

「大会参加登録・自由研究発表申込」のフォームへ進み、お手続き下さい。

## 9) 自由研究発表申込 (締切 6月28日 (金))

- ① 自由研究発表をご希望の方は、上記の参加登録フォームにて「自由研究発表希望」にチェックの上、自由研究発表申込フォームにご記入ください。
- ② 発表時間 30分 (発表 20分、質疑応答 10分)  
\*時間厳守でお願いいたします。
- ③ 自由研究発表有資格者 — 2018年度までの会費納入済み会員  
非会員が発表を希望する場合は発表申込期限までに入会手続きを完了する必要があります。なお次回理事会は7月下旬に開催予定ですので、発表を希望される場合は入会申込書を6月28日(金)(必着)までに学会事務局にお送り下さい。入会方法については、学会ウェブサイトの入会案内をご覧ください。
- ④ 自由研究発表組み合わせ等  
発表題目などを参考に実行委員会にて調整いたします。
- ⑤ 自由研究発表を申し込まれた方は、別紙「自由研究発表要旨」作成要領に基づき発表要旨原稿を7月26日(金)必着で、Eメールの添付ファイル(ワードファイルに限る)にて、日本国際教育学会第30回研究大会実行委員会事務局 ([jies30th@gmail.com](mailto:jies30th@gmail.com)) までご提出ください。
- ⑥ その他  
自由研究発表内容に関して、学会事務局よりお問い合わせをさせていただく場合があります。あらかじめ御承知おきください。

## 10) 自由研究発表における留意事項

- 発表者は、当該分科会開始 10分前までに分科会会場にお入りください。
- 発表時間は 20分、当該発表に関する質疑応答は 10分、計 30分です。発表時間の超過は認められません。時間配分にご注意ください。
- 発表時刻および発表順の変更は原則として行いません。やむを得ない事由により発表辞退者が発生した場合も同様です。その際は司会者判断により休憩または討論の時間とします。
- 配布資料は各自必ず 30部以上の部数をご用意の上、発表当日に会場まで直接ご持参下さい。資料の形式は原則自由とします。大会期間中、配布資料等を会場内で印刷・作成することは出来ません。資料その他を事務局でお預かりすることも出来ません。ご了承ください。
- 発表機材(PC)は、各分科会会場に設置されたものをご使用ください。PCはあくまで「補助ツール」ですので、万一システムトラブル等が発生するなど、不測の事態が生じた際の責任は負いかねます。PCが使用不可の場合でも発表に支障のない配布資料をご準備ください。

1 1) アクセス：大谷大学本部キャンパス（京都市北区）



受付：K406 教室前

総会・公開シンポジウム：K406

課題研究：K406

自由研究発表分科会：K406 K408 K409

理事会：K411

情報交換会会場：学内食堂を予定

休憩所：K410

喫煙所：講堂棟 2 階ベランダ 指定喫煙所

<http://www.otani.ac.jp/nab3mq0000004vfa.html>

1 2) ホテル案内：お手数ですが、各自でご手配をお願いいたします。

(京都は観光客が多く混みますので、お早目のご手配をお勧めいたします)。

1 3) 大会事務局

日本国際教育学会第 30 回研究大会実行委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育学部 田中潤一研究室

メールアドレス：[jies30th@gmail.com](mailto:jies30th@gmail.com)

(ご連絡は原則メールをお願いいたします)